

平成29年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立東小沢小学校 教諭 西野 めぐみ

- 1 派遣期日 平成29年8月27日(日)
- 2 研修先 学校名 筑波大学附属小学校
所在地 東京都文京区大塚3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp>

3 研修内容

第7回 道徳研究大会
第25回 価値判断・意志決定力を育成する社会科授業研究会
(テーマ) 道徳科と社会科における問題解決的学習の共通点と相違点を探る

(1) 講演 「社会科と道徳科のよりよい関係を考える」

岐阜大学大学院准教授 柳沼 良太先生

社会科の目標は、「公民的資質の基礎を養う」ことを目指すとある。そして、公民的資質

とは、平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うことや、社会的義務や責任を果たそうとする態度を育成すること。さらに、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりする能力を養うことであると考えられている。よって、社会的な価値判断をする子を育てるためには、多面的に考えたり、公正に判断したりする態度や能力の育成を重視した学習を展開することが重要となる。

また、こらからの時代を生きる子どもたちは、習得した知識を用いて社会的事象から問題を発見し、多くの人々と相互対話をしながら、主体的に社会と関われる自立した人間として育っていかなければならない。そのため、社会科における、我が国の歴史や伝統、文化に関する学習においては、社会生活についての理解を深め、郷土を愛する心を育てることへとつながり、さらに、集団や社会との関わりについて多角的な思考や判断をする力を築く基礎をつくりあげることになる。このように、社会科は、よりよく生きるための道徳性を養うために、道徳科と密接な関係にある。

さらに、これまでの道徳の授業においては、いくつかの課題が浮き彫りになってきた。資料の読み取りや表面上の心情を考える展開が形式的であるとされたり、授業が道徳的行為や習慣に繋がらないとされたりした点が指摘されている。これからは、従来の知識や技能を習得するだけではなく、問題解決的な学習を取り入れた対話的な学びにより、よりよい生き方を協議探求することで、答えのない問題に最善の答えを導ける力や別の問題場面でも適用できる汎用力などの能力の育成が求められる。

こうしたことから、社会科と道徳科のよりよい関係をたもった学習の展開が重要となってくる。

(2) 授業公開1 道徳

「道徳科における問題解決学習的な授業を考える」

～学習問題を子どもとともにどう捉え、どう作るか?～

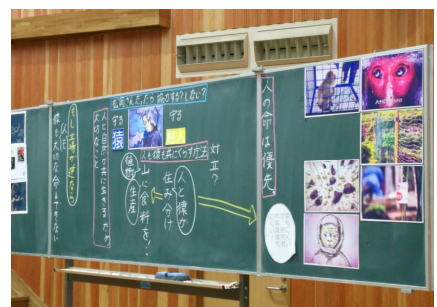
早稲田実業学校初等部 星 直樹先生

- ① 主題名 「自然や動物とよりよく生きるには」
- ② 教材名 「猿も人も愛した写真家」(道徳ドキュメント NHK)
- ③ 本時のねらい

- ・村人と猿との問題を、長年極寒の中で生きる猿を見つめてきた松岡さんの葛藤に触れながら考えることで、ともに認め合いながら生きる大切さに気づき、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。

④ 教材の扱いと指導の工夫

- ・映像で社会的な実際の問題を取り上げ、問題解決への必要性を感じさせる。



- ・問題の解決の話し合いから、解決が困難であることを知り、一人一人の心の課題へ発展させる。
- ・当事者の思いに触れ、自分との接点を見つけ自己を見つめる場を設ける。

⑤ 問題解決的な学習での教師の役割

- ・番組を視聴し、学習問題を設定し、解決に向けた話し合いをする。
- ・意見を問い返すことで、理解を深め練り上げていく。
- ・問題解決の中の意見や体験談から、自分の生活へ生かす主体性を育てていく。

⑥ 評価(子どもの自己評価)

- ・授業前と考えが変わったり、納得できなかったことがみつかったりした。
- ・主人公と自分の考えを比べることができた。
- ・友だちの意見の中に、よい点や共通点を見つけられた。
- ・自分にできることを考えられた。

(3) 授業公開2 社会科

「オリンピック成功のために、自分の幸福と社会全体の幸福、どちらを優先すべきか
価値判断する授業はどうあるべきか」 筑波大附属小学校 梅澤 真一先生

① 単元名 東京オリンピック2020 羽田空港の増便計画について考える

② 本時のねらい

- ・羽田空港の離発着枠を拡大する国土交通省の案を知り、その案に賛成か反対か、自分の意見を明確にする。
- ・自分とは違う人の意見を聞き、自分の考えを見直し、確かなものにする。

③ 展開

○飛行機を増便することに賛成か反対か自分の考えを明確にする。

〔賛成〕 経済効果が大きくなる。
多くの人が来ることができる。
開催地としての礼儀である。

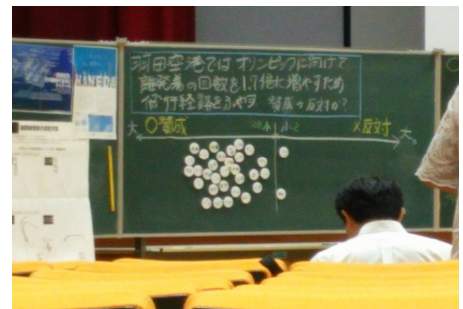
〔反対〕 騒音がうるさい。
飛行機が落ちたら大惨事になる。

○納得のいかない点を質問する。

- ・飛行機が墜落することはまずない。
- ・騒音は伊丹空港と同じ位なのでもんできる。

○話し合いをもとに考え直す。

- ・やっぱり日本人の安全が第一だ。東京の上空は飛ばさないようにしたい。
- ・お客さんを迎え入れる体制をみんなで確認し「おもてなし」を大切にしたい。



4 感想

特別な教科道徳をスタートするにあたって、ぜひこれからの道徳を学びたいと思い筑波大附属小学校での研究会に参加した。これまでの資料読み取りの道徳の授業から、問題解決的な道徳の授業の展開に直接触れることができ、大変勉強になった。

本来よりよく生きるための心の基礎を育むための道徳であるが、資料から主人公の心情を読み取るのでは、表面的な心の動きや決まり切った正しいとされる考えを発言するにとどまり、いじめのような現実問題に対応できなかったり、単なる生活経験の話し合いになってしまったりしているという指摘に、強い衝撃を覚えた。しかし、このことは、事実であり、従来の知識・技能を習得するだけでは不十分であることは言うまでもない。

これから求められる道徳性とは、主体的に考え判断する力や協議して問題を解決する力、生きて働く知識や道徳性及び人間性であることを再認識した。道徳は教育活動全体を通して学んでいくものであるが、特に、社会科においては、それまでの歴史から人としての教えや集団での規律など道徳的価値判断と大きな関係をもつことに気づくことができた。

これからの道徳の授業の中で、子どもたちの実態に合う諸問題を取り上げ、そこから問題を見だし解決する力を養うための授業が展開できるよう研修を深めていくことが、特別な教科道徳をよりよいものとして子どもたちに伝える私たちの使命だと感じた。貴重な研修の機会をいただけたことに深く感謝いたします。